

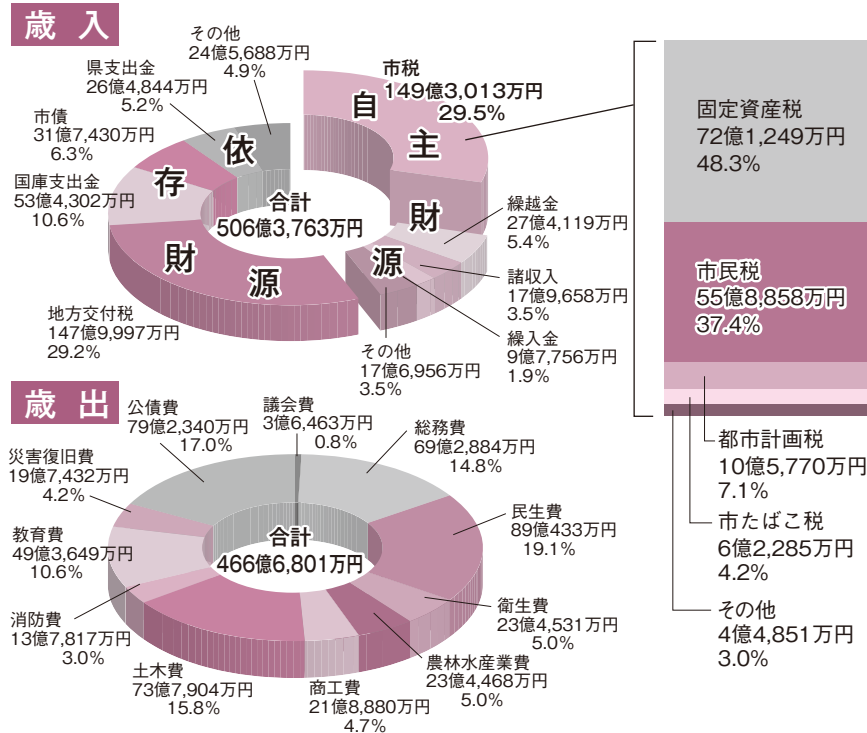
平成19年度

決算

知恵を絞って 大切に使いました

それぞれの家庭に家計が、また、会社や団体ごとに収支決算があるように、市にも年度ごとに予算と決算があり、知恵を絞ってお金を大切に使っています。平成19年度決算が市議会定例会で認定されましたので、そのあらましをご紹介します。

● 入ったお金と使ったお金の内訳 (一般会計)



歳入 506億3,763万円 歳出 466億6,801万円 差引残額 39億6,962万円

● 特別会計の決算状況

会計名	歳入	歳出	差引残額
国民健康保険事業(事業勘定)	94億9,082万円	87億6,843万円	7億2,239万円
国民健康保険事業(直診勘定)	7億4,216万円	6億570万円	1億3,646万円
老人保健医療事業	78億3,038万円	77億3,925万円	9,113万円
下水道事業	50億3,550万円	50億625万円	2,925万円
地方卸売市場事業	9,322万円	8,945万円	377万円
学校給食費	3億8,092万円	3億8,083万円	9万円
簡易水道事業	10億4,313万円	9億7,572万円	6,741万円
農業集落排水事業	8億2,744万円	7億8,068万円	4,676万円
介護保険事業(保険事業勘定)	71億4,837万円	68億110万円	3億4,727万円
介護保険事業(介護サービス事業勘定)	2,773万円	2,457万円	316万円
観光施設事業	1億6,323万円	1億2,830万円	3,493万円
スキー場事業	2億2,396万円	1億7,531万円	4,865万円
計	330億686万円	314億7,559万円	15億3,127万円

財政指標に見る決算

健全な 財政運営

● 財政力指数

基準値を1とし、1に近いほど財政力が豊かであるとされている指標です。

高山市の財政力指数は、平成17年度が0.504、18年度が0.533、19年度は0.556と前年度に比べて0.023ポイント高くなりました。

● 経常収支比率

財政の弾力性を計る指標です。支出のうち、人件費や公債費など必ず支払わなければならない固定的な経費が、市税や地方交付税などの収入に対してどれだけ占めているかをみることができます。

率が低いほど臨時的な経費にお金を回せることになり、財政に余裕があることとなります。高山市では、18年度が79.